

製品名: CYP19A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09628**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	CYP19A1
別名	CYP19A1; ARO1; CYAR; CYP19; Cytochrome P450 19A1; Aromatase; CYPXIX; Cytochrome P-450AROM; Estrogen synthase
遺伝子 ID	1588.0
SwissProt ID	P11511
免疫原	抗血清はヒトシトクロム P450 19A1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

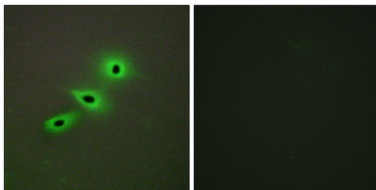
背景

シトクロム P450 ファミリー 19 サブファミリー A メンバー 1 (CYP19A1) ホモサピエンス この遺伝子は、シトクロム P450 スーパーファミリー酵素のメンバーをコードします。シトクロム P450 タンパク質はモノオキシゲナーゼであり、薬物代謝やコレステロール、ステロイド、その他の脂質の合成に関わる多くの反応を触媒します。このタンパク質は小胞体に局在し、エストロゲン合成の最終段階を触媒します。この遺伝子の変異は、アロマトラーゼ活性の増加または減少を引き起こす可能性があります。関連する表現型は、エストロゲンが性ステロイドホルモンとしてだけでなく、成長または分化にも機能することを示唆しています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014 年 5 月],触媒活性: $RH + \text{還元フラビントタンパク質} + O(2) = ROH + \text{酸化フラビントタンパク質} + H(2)O$,補因子: ヘム基,疾患: CYP19A1 の欠陥は、家族性女性化乳房[MIM:139300]の原因です。これは、アロマトラーゼ活性の上昇によるエストロゲン過剰が特徴です。疾患: CYP19A1 の欠陥は、アロマトラーゼ欠損症 (AROD) [MIM:107910]の原因です。AROD は、胎盤のアロマトラーゼ欠損により胎児のアンドロゲンがエストロゲンに変換されない稀な疾患です。そのため、妊婦は多毛症を呈しますが、産後には自然に治ります。出生時、女兒は外性器の男性化により仮性半陰陽を呈する。成人女兒では、思春期遅延、乳房低形成、多嚢胞性卵巣を伴う原発性無月経などの症状が現れる。機能: C19 アンドロゲンから芳香族 C18 エストロゲンの生成を触媒する。オンライン情報: アロマトラーゼのエントリ,類似性: シトクロム P450 ファミリーに属する。組織特異性: 脳、胎盤、生殖腺。,

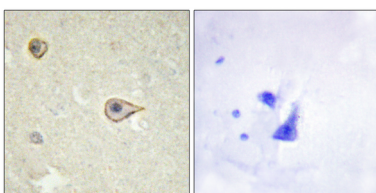
研究分野

ステロイドホルモンの生成、アンドロゲンとエストロゲンの代謝、

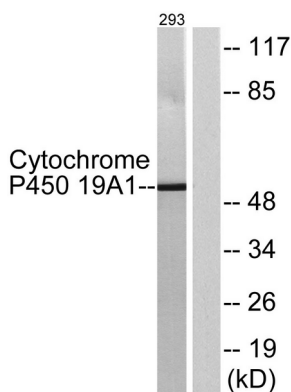
画像データ



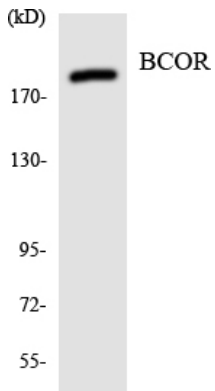
シトクロム P450 19A1 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



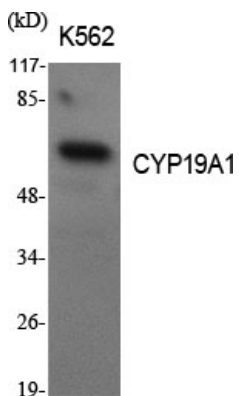
シトクロム P450 19A1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



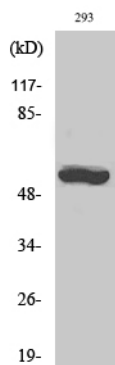
シトクロム P450 19A1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



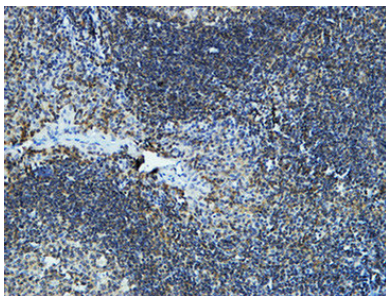
BCOR 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



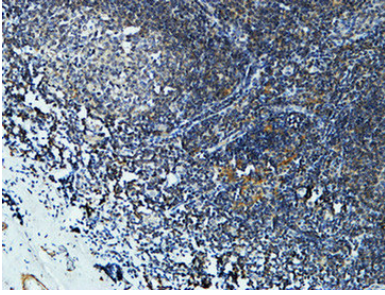
1: 1000 に希釈した CYP19A1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



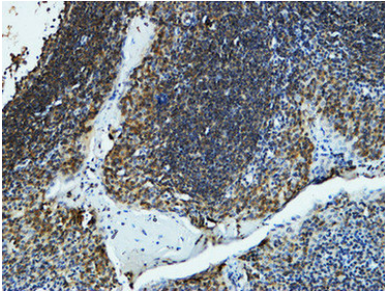
1: 1000 に希釈した CYP19A1 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。